

第 62 号

令和 7 年12月1日発行

自 重

出雲大社北島國造館

出雲教

HP



0853-53-2525

出雲市大社町杵築東194



 重陽の節句祭 「いころ音」 雅楽会

恒例となりました「重陽の節句祭」を本年は九月七日に行いました。重陽の節句は五大節句の一つで、古くから九月九日に菊花を愛でながら宴を開き、長寿や厄除を願う風習があることから「菊の節句」とも呼ばれています。御神殿にて出雲大神様の大前に菊花をお供えた後、神職が皆様の健康長寿を祈願いたしました。祭典後はご参列の皆様は菊酒を拝戴いただきました。

また本年は神賑行事として、会場を八雲会館に移し、「いころ音雅楽会」の皆様による雅楽の上演が行われました。この会は一九九九年「ビッグハート出雲」の落成記念演奏会を機に山陰両県の雅楽愛好家が集まって結成され、伝統音楽のすばらしさを樂しみつつ、各地で雅楽の紹介演奏を行っております。

雅楽は平安時代の初めに成立して以来、千年以上変わらぬ形で継承されており、世界最古のオーケストラともいわれています。笙、箏、篳篥、龍笛など古代の東アジアから伝えられた楽器からなる雅楽ですが、この日は管絃曲目「越殿楽」と「海青楽」又、舞楽「還城楽」を上演いただきました。

会館内には伝統音楽の優雅な音色が響き渡りました。

「慈愛」

出雲國造

北島建孝

十年程前までは晩酌を楽しみにしていた。ほぼ毎日飲んでた。三十代の時、出先で何となく手にしたガラスの酒器を買った。使っていると重心が下にあり安定が良く、金箔のようなものが散らしてある。少し歪んだ姿であったが手の中に程よく収まり、いつもそれを使っていた。他の物を手にする日もあるのだが、結局これに戻ってしまう。それがひよんなことから割ってしまい破棄することになった。気まぐれで買った物だから、少々残念ではあったが惜しいとは思わなかった。それが、日が経つ程にその器が恋しくなってきた。しょうがないので似たような酒器を求めてみたがやはり違う。半年も経つと、とても惜しまれ残念でならなくなった。もう二十年以上も前のことなのに今でも姿形を覚えていた。

好きでも嫌いでもなかったのだが、ある日から犬と猫を飼うことになった。猫は内、犬は外。一緒に暮らしてみると案外に楽しい。猫とは遊んだり昼寝をしたり、犬とはよく散歩をした。当然のことながら寿命があり、その日を境にいなくなった。もともと飼いたいと思っていた訳ではないので、仕方ないくらいにしか考えなかった。しかし犬も猫も十五年以上も一緒にいたのだから、次第に寂しさが募り増してくる。今も道で似た犬猫を見かけると思わず声をかけたくなってしまう。

誰しも大切にしているものはあると思う。

形あるもの、形のないもの、様々だろう。しかし手元にある時は大切だと気付いていないことも多いのではないだろうか。失ってみて初めて自分にとって大切な物だったと気づくことがある。思いや考えにしてもそうかもしれない。自分は当たり前の考えも、感性も性格も、実は自覚できていないことも多いと思う。指摘されたり否定されたりしてようやく気付くこともある。竹内まりやさんの「いのちの歌」には「本当にだいいじなもの隠れて見えない」という一節もある。自分が何を大切にしているのか知っていることは無駄なことではないと思う。

出雲教の信条の一つに「慈愛」がある。慈も愛も「いつくしむ」と読むことができるのだが、つまりは大切にすることだと私は思っている。私たちは大切な物を無くした時、「もつと丁寧扱ってあげればよかった」もつと優しくしておけば良かった」と少し後悔に似た思いを抱いてしまう。その都度反省もするのだが、また繰り返してしまう。この連続で今日まで生きてきたように思うし、たぶんこれからも繰り返すのだろう。自分が何を大切にしているのか、人々々だと思ふ。何を大切にしているのか、何を大切にしてきたのか、明確に分からないこともあると思う。暮れていく令和七年のわずかな時間に、静かに自分の心の中を見つめ直すことも良いのではないだろうか。新しい年を新しい気持ちで始めることがきつとできそうな気がする。

来る年が皆様にとって良い年であることを祈ります。

「カミサマ紙芝居」

紙芝居師「なっちゃん」

中谷奈津子

私は令和五年秋から、大社町内保育園・幼稚園の園児に、出雲の神様のお話「カミサマ紙芝居」を届ける活動を出雲教の皆様と一緒にさせてもらっております。

近年、神在祭などが広まり、出雲に来る観光客も増える中、出雲で生まれ育つ子ども達に、出雲の神話を知ってもらう事とても良い事だと思っています。「自分達が暮らす出雲にはこんな素敵な神様が居る」事を知って貰い、子ども達が大人になった時に「私達の町には素晴らしい神様が居て、常に皆を守ってくれる」と、出雲で育った事に誇りを持って貰えたら嬉しいのです。

「古事記」や「日本の神話」は難しいイメージがあるので、子ども達に紙芝居をする時は、神話を身近に感じてもらえるよう、お話の中にポーズを入れたり、一緒に声を出したり、先生方に協力してもらい演技してもらったり…出雲の神様を「体感」してもらおうと心がけています。

出雲の神様は失敗しながらも立派な神様になっていく…「神様の成長物語」のような出雲の神話をこれからも老若男女、沢山の方に届けられたらと思います。

「幼稚園よりお礼の声」

出雲市立大社幼稚園 園長 大瀧 正紀

今年度も出雲教様の計らいにより大社町の幼稚園・保育園六園で、十月下旬の三日間、なっちゃんこと中谷奈津子さんによるカミサマ紙芝居の公演が行われました。まずは、楽器に合わせて軽く身体と心を動かし、会場は早くも「なっちゃんワールド」に。「いらっしやいクイズ」で、園児は大盛り上がり。そして、スサノオノミコトを主人公に「ヤンチャからヒーローへ」の紙芝居。「スサノオポーズ」では、園児は思い思いのポーズを決め、なりきっていました。ホットな時間であり、神話を学ぶ機会でもあり、最後はさすがに気持ちになりました。なっちゃん並びに関係者の皆様、ありがとうございました。



「二万人のお宮奉仕 出雲教境内清掃」

二万人のお宮奉仕 事務局 清水有子

一人のお宮奉仕は令和二年二月、感染症騒ぎと同時に始まった。

平成二十八年、『和合』という和と神社の幸せ情報誌の購読者の会『和合友の会』を立ち上げた。集まった方々が仲良くなるようにと始めたのが神社清掃。御縁のあった数社の神社にお伺いしている内に参加者や宮司様から、全国に広めてみてはどうかとご提案があり、多くの神社様の御力添えを頂き始まった。現在六年目、毎月二十五社程の神社やお寺、皇居や御所へもお伺いしている。

単なる御奉仕ではなく、神社に詰まっている歴史・文化・伝統・先人達の想いを学ぶ場、御縁ある方々との絆を深める場、そして何よりも自分の心を磨かせていただく場として、神社という大切な場所をお借りしている。御奉仕の前にまず身を清めるために正式参拝、終了後には宮司様や神職様にご講話を頂くという大変有難い活動。大東亜戦争の後、学校では教えて貰えなくなった日本の大切な歴史や生きるための道「かんがひ 惟神の道を次世代に伝えていく為の神計りではないかと最近感じるようになった。

大自然の恵みへの感謝や利他の心、森林破壊や水源の環境問題、物と経済中心の高度成長期が神仏を大切にしている日本人の心を変えてしまった事、また今年は戦後八十年の節目で、改めてこの国の為に命を散らした先人達の想いなど、神社を通して伝えていくべき事は多く、中今を生きる我々の使命だと感じる。

出雲出身の団員がきっかけで山陰地方での活動が始まり、今では毎月島根県下で開催させて頂いている。北島國造館 出雲教様は令和六年から三度お伺いさせて頂いた。いつ来ても清々しい気が流れ、神職様の温かなお人柄が心を一層和ませてくださる人気のお社。神様がお喜びになり神社が一層賑わい、長い歴史を支えてこられた多くの御先祖様に恩返しとなるこの活動を、出来る限り多くの方々にご賛同頂き、出雲の地で拡げていきたい。



尾道市立御調西小学校

「みあがり踊り」奉納

尾道市御調町に伝わる「みあがり踊り」は福山市に至る芦田川の上流である御調川の流域地域に昔から踊り伝えられた、鉦と太鼓の踊りです。

その源流は中世の田楽にあり、それに念仏踊りの趣向が加わって、雨乞い踊りとして今日に伝えられたとの説が定着しています。昭和四十一年には「広島県無形民俗文化財」の指定を受けており、令和八年は指定六十年の節目を迎えます。

時代の流れの中で、平成の大合併により平成十七年に近隣市町村と合併し、新しい御調町となりましたが、住むまち、くらす地域には固有の歴史があり、必ず伝統文化が息づいています。こうして伝えられてきた大切な文化財を小学校や高等学校の「授業の一環」に加え、学校と地域が一体となって児童・生徒への伝承に取り組んでいます。伝統文化を継承発展させることは、そこに暮らす人々の「誇りと自信」です。

次の半世紀先に向かって大きく引き継ぐ一里塚とするため、平成二十八年に「広島県無形民俗文化財」指定五十周年記念事業を開催し、町民こぞって絶大なるご支援ご厚情を賜りました。地域文化の興隆に寄与するため、指定六十周年に備えていききたいと存じております。

結びに、奉納公演の機会をいただきました出雲大社北島國造館 出雲教職員の皆様方のご清祥をお祈り申し上げます。
(尾道市立御調西小学校)

地域教育支援推進委員会

会長 柏原 隆弘

御調町郷土芸能保存会

会長 山根 信行

校長 横松 太江子

参加した児童の感想

● みあがり踊りを踊った時に、足をしっかりと動かすことをがんばりました。練習の成果が発揮できて良かったなあと思いました。(第五学年)

● 僕は、同じ「かしら」の友達と目を合わせ、力を合わせて、仲間を引っ張り、楽しく真剣に踊ることができました。(第六学年)

※「かしら」踊りのリーダー役



かめやま広場駐車場

有料化のお知らせ

この度、出雲教では令和七年十一月二十五日より、駐車場の適正利用と混雑解消の推進を目的に、かめやま広場駐車場を有料化させていただくことになりました。出雲教にて祈祷・結婚式を行った参拝者の方は当日無料の割引券を発行致します。

何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和八年祭典・行事(二月～六月)

一月 一日(木)	歳旦祭
一月 十二日(月)	かめやまんど祭
二月 三日(火)	節分祭
二月 十七日(火)	祈年祭・教祖祭
三月 二十日(金)	春季祖霊社大祭
三月 二十一日(土)	旧初午祭
五月 十四日(木)	例祭前日祭
五月 十五日(金)	出雲教例祭
六月 一日(月)	風雨順次悪虫退散 祈願祭
六月 三十日(火)	夏越の祓

※連載「大神様のおかげ」は、これまでの掲載分を含め冊子として発行する予定です。詳細が決まり次第、紙面にてお知らせします。